

24 情報伝達手段の多重化・多様化

取組分類	参加体験	行動特性	デジタル
	☑災害の切迫 ☑避難しやすい		
自治体	宮城県多賀城市		

問合せ先：宮城県多賀城市 危機管理課

取組概要

- 円滑な避難行動を支援するため、SNSや登録制メールなども活用し、多様な手段で情報伝達。
- 令和4年7月には、市民目線に立った扱いやすい新たな防災アプリを導入。**高齢者や視覚障害者等の要支援者に向けた機能を搭載**し、支援を充実させている。

取組のきっかけ

- 東日本大震災の際、災害情報の伝達手段は、主に防災広報装置による放送やサイレンであった。
- 市民に正確な情報を迅速に伝達するため、**デジタル技術を活用した情報伝達手段の多重化及び多様化を推進**。

取組のポイント

- 防災行政無線、サイレンと合わせ、市民が必要な情報を常時入手できる環境を構築し、地震・津波情報を含めた**防災気象情報、避難情報や、避難所の開設情報**等を適時に発信。
- 令和4年7月から導入した新たな防災アプリにおいては、通知画面において防災行政無線で放送されている内容が分かりやすく表示。警戒レベルも表示される。
- 高齢者や視覚障害者等要支援者への対応として、**音声読み上げやサイレン**などの機能を充実させている。
- 今後、防災行政無線の放送と**同時に**、防災アプリのほか、SNS、登録制メール等へ**配信できるよう連携予定**。

▼防災アプリのトップ画面



▼防災行政無線の表示イメージ



▼警戒レベルの表示イメージ



取組の効果

- 令和5年2月のアプリ登録者数は約6,600人。令和4年11月には情報伝達訓練にも使用した。
- 市民が地震・津波情報などの防災気象情報、避難情報や避難所開設情報等などを認識できることにより、速やかな避難行動の一助となっている。